７月５日（日）に実施された、令和８年度の「１級土木施工管理技士　第一次検定試験」の問題は、過去問ベースの出題傾向で大きな変わりはありませんでした。
全体的な難易度は**例年通りの難易度**と思います。
応用能力問題は、過去に出題された問題と似ているものが多く、**例年と同様の難易度**と思います。

合格するためには、過去問８年分の意味を理解して徹底的に解き続ける必要があると感じた試験でした。

午前の部
・No１~No５　工学基礎知識
難易度：やや難しい
・土質工学２問（土の構成、土の締固めの性質）
土の構成は昨年の問題や２級土木施工管理技士の試験問題を復習しておけば解けた問題でした。土の締固めの性質は、土木一般の「**土の締固め管理**」を学習しておけば解ける問題でした。
・構造力学２問（等分布荷重 片持ち梁の曲げモーメント図、軸方向応力）
曲げモーメントの問題は昨年と同じでしたが、**等分布荷重 片持ち梁の曲げモーメント図**は初出題で**非常に難しい**ものでした。令和８年 前期 2 級土木施工管理技士 第一次検定も同じく、集中荷重の問題が出題されましたが、片持ち梁では無かったため、参考とする問題ではありませんでした。
軸方向応力の問題は**前年の引張力と引張応力との関係の問題から少し変化した問題**でした。公式を覚えておかなければ解けないため、公式を覚えていない方にとっては**難しい問題**でした。
・水理学１問（オリフィスの流出速度）
この問題も初出題で難しいものでした。2 級土木施工管理技士 第一次検定でベルヌーイの定理は出題されておりましたが、ベルヌーイの定理から式を変換して答えにたどり着く問題は２級でもありませんでしたので、**難しい問題**でした。

・No６~No20 一般土木
難易度：例年通り
出題内容は、土工５問、コンクリート工６問、基礎工４問と例年と同じでした。
No６の土質試験は、令和６年以来２年ぶりの出題であり、各々の試験の特徴を覚えていないと解けない問題でした。また、**No９の土量の変化率**は２年連続の出題となりました。
土工は通年通りの問題が多かったので、点数を稼げるものでした。
No11 の粗骨材の品質の問題は毎年同様難しい内容でした。毎年、型枠の側圧もしくは鉄筋

工が出題されていましたが今年は出題されない珍しいラインナップでした。
コンクリート工も通年通りの問題が多かったので、点数を稼げるものでした。
基礎工は、「基礎の形式、既製杭、場所打ち杭、土留め工」と毎年同様の内容でしたので、過去問をしっかり行っておけば必ず解ける問題でした。

・No21~No54 専門土木
難易度：例年通り
過去問と同じ内容の問題が例年通り散見されたため、**解きやすい問題を選択すれば点数を稼げた内容**でした。専門土木の中にも、一般土木の土工やコンクリート工に類似する問題があるため、見極めることが重要です。また、問題文で「**適当なもの**」なのか「**適当でないもの**」なのかをしっかりと読む必要があります。
私が選ぶとしたら、
No21 鋼道路橋の架設作業の留意事項
No22 鋼道路橋の溶接施工上の留意事項
No24 アルカリシリカ反応抑制対策
No26 河川堤防の盛土施工
No32 道路のアスファルト舗装における路盤の施工
No33 重力式コンクリートダムの配合区分
No41 トンネルの山岳工法における覆工コンクリートの施工
No45 水中コンクリート
No46 鉄道のコンクリート路盤の施工
No52 下水道管渠の更生工法
の問題でした。

・No55~No66 法規
難易度：例年通り
火薬類取締法が３年連続で出題されず、建設業法が昨年同様２問出題されました。
出題内容は、労働基準法２問、労働安全衛生法２問、建設業法２問、道路法１問、河川法１問、建築基準法１問、騒音・振動規制法２問、港則法１問です。
こちらも**過去問通りの内容が非常に多かったた**め得点しやすいものでした。

午後の部

・No１~No４　共通工学

難易度：例年通り

TS を用いて行う測量１問、公共工事標準請負契約約款１問、逆 T 型擁壁の配筋図１問（2 年連続の出題)、建設機械の最近の動向１問（２年連続の出題）でした。

No１～No４は過去問を復習しておけば、しっかり点数が取れたと思います。No４は昨年の問題とほぼ同様であったため、令和７年の問題を復習しておくべきでした。

・No５~No20 施工管理

難易度：例年通り

施工計画１問、工程管理１問、安全管理７問、品質管理３問、環境保全等４問。この出題内容は令和３年から令和７年までと変わらないものでした。

数字を暗記しなければならない問題は４問でした。

No７　安全措置義務の問題は令和元年以来の７年ぶりでした。

No８　安全衛生管理体制の問題は問題文をしっかり読んだうえで数値も覚えておかなければならかったため**少し難しい問題**でした。

No９　技能講習の問題は平成 30 年以来の８年ぶりでした。

No19 の建設発生土に関する問題は、新規の文章が多く**難しい問題**でした。

No20 のコンクリート又はコンクリート工作物の解体工事は昨年と同じような問題でしたので、こちらも令和７年の問題を行えば得点できる可能性は高かったです。

・No21~No35 応用能力

難易度：例年通り

施工計画４問、工程管理３問、安全管理４問、品質管理４問。

この出題内容は令和３年から令和７年までと変わらないものでした。

全体的に過去問と同じ問題が散見されたため、**過去問対策をした人は６割を超えられた**と思います。**適当なものの数**はどれか。という問題は相変わらず新規の文章が混じっているため、難しいものもありました。例えば No22 の建設機械の選定（選択肢①)、No27 横線式工程表（選択肢③、④)、No34 鉄筋の加工及び組立ての検査（選択肢③）

No31 労働者の健康管理の問題は令和３年以来５年ぶりに応用能力問題で出題されました。

全体を通して、**令和７年度で出題された問題で似たパターンの問題が多い印象**があったため、前年の問題は改めて行っておかなければならないと感じた試験でした。